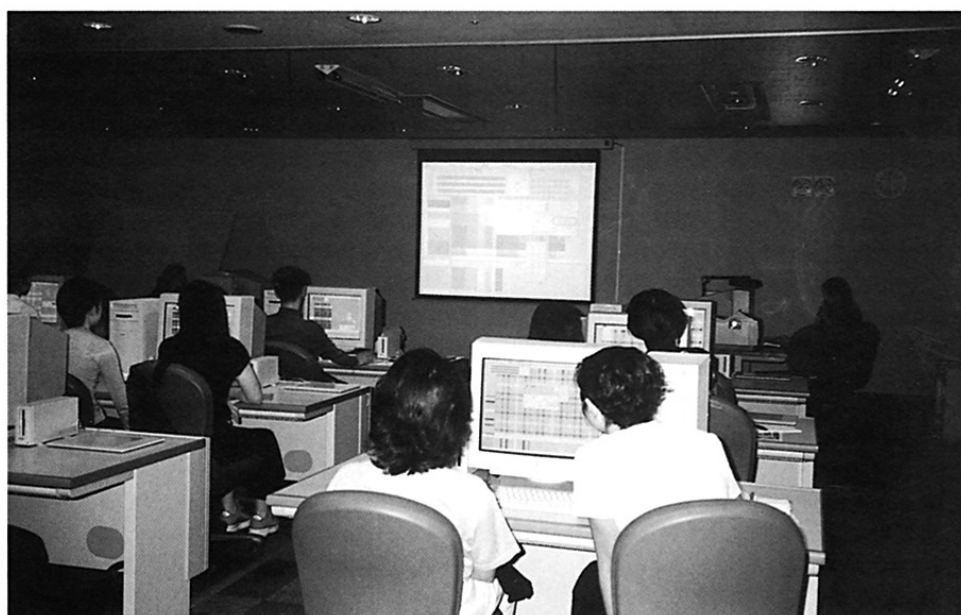


第3回 関西教育分科会



秋とは名ばかりまだ暑さの残る9月6日、第3回関西教育分科会が神戸ファッションマートで開催されました。当日は事業部主催の見学会並びにセミナーが同会場で行われており、教育分科会はこれに先立つかたちでの開催となりました。

震災以後、神戸ファッションマートでは建物内に神戸ファッション産業復興支援センターを開設し、被災したファッション関係の企業などに企画支援、資料提供、人材育成など様々な支援活動を行っています。会場はこの支援センターの中にあるマルチメディアルームで行われました。

正面にインストラクター用の大画面。11台の実習用のコンピューターがこれに向かい合うかたちでならんでいます。参加者は17名。一人ないし二人で一台のコンピューターを体験するという恵まれたものでした。

指導は、株式会社ジュン PandE事業部の、宮野小夜子さん、倉本好恵さん。テキスタイルデザインの画像入力からカラー変換、配色シミュレーションと進み、入門編とはいえなかなか専門的、かつすぐにも役立つ実践的なCG実習でした。

- ・初めての体験。戸惑いもあるが興味深い。
- ・今年CGが導入され、制作が始まったばかり。大変参考になった。
- ・もう少し時間がほしかった。以前から関心があったのでいい機会だった。仕事としてどのように活用できるか考えたい。
- ・実際体験として楽しめた。デザインの表現手段としてコンピューターの可能性をもっと考えてみたい。こうした機会をまたもってほしい。

このように参加者からは直接コンピューターを体験することで、コンピューターとテキスタイルデザインとの関わり合いをもっと知りたいとの声が寄せられました。

コンピューターがテキスタイルデザインに対し大きな影響を与えたことは周知のとおりです。創造性を高め、多様な表現を可能にできる新しい手段としての一面だけでなく、デザインが製品化されるまでのプロセスのなかで様々な分野で効率化を計る道具としてもコンピューターは使用されています。

CGによるテキスタイルデザイン制作、バーチャルリアリティを利用した企画のプレゼンテーション、ジャーカード織や刺繍、プリントの彫刻などのコンピューター化、配色シミュレーション等々。

教育分科会としては、今後もこうした機会を設け、功罪を含め様々な角度から研究していきたいと考えています。

終わりにになりましたが、お世話下さいましたジャパンマーケットセンターの高田恵太郎部長、神戸ファッション産業復興支援センターの國見章様、インストラクターのお二人に心からお礼申し上げます。

参加者:内藤美香、加藤依里子、田原由樹、加藤國男、長谷川大二、田村真由美、丁 貴正、野乃口悟、山田紫帆里、三原香代子、玉川佐規子、佐藤里絵、沢井美貴子、末吉浩子、中島桃子、木谷雄二郎、宇佐美令子(敬称略)

レポート [鈴木洋行]

